



見本となる分庁に

答 住民サービスの視点で

問

山口芳正

情報網が発達し、地域分散型の社会づくりが問われている。

中山間地の見本となる分庁とし、町の均衡な発展と庁舎の規模縮小など、建築経費の節減を図る考えはないか。

答

町長

庁舎は、まちづくりの中核、効率的に機能するよう全ての事務を同一庁舎内で行い、連携を密に積極的なまちづくりを推進する。

住民サービスの視点に立つて、町全体に公平にサービスできるのは、本庁と一定のサービスが完結する支所の存在と確信する。

分庁では、決裁や会議などの移動で非効率となり、災害発生時の迅速な対応にも、初動体制にも遅れが懸念される。

現組織の見直しによる本庁と支所づくりに取り組む考えだ。

吾北分校通学に

答 通学支援

問

山口

仁淀高校が廃校となり通学は佐川高校1校と想っていたが、国道改良の進む中で近年、追手前高校吾北分校に通う生徒が増えている。

この路線は公共交通がなく、通学に苦労している。

いの町と連携し、早期の実現を。

答

大野教育長

本町から吾北分校に通学している生徒は11人いる。4人はバイク通学の

問

山口

若者定住と町外流出の歯止めにつながるのでは。

答

町長

若者定住の一貫と子育て支援として、月額5千円の通学支援をしている。高校は佐川、須崎高校、伊野商業、吾北分校などあり、全てに町が支援できない。

基本的に高校は県の教育委員会に要請してきたが、非常に厳しく実現していない。

今後も教育委員会と検討していく。



町道宗津線



追手前高校吾北分校



私の部活 の部活

までには時間がかかりました。中学三年生になり、受験に向けて勉強まっしぐら

でも志望校に行きたいと思うことで立ち直れます。私にとっての部活は、大きな自信と心の強さをくれました。

池川中三年 藤原 梨帆

中学校に入学してからは大変でした。勉強と部活の両立は特にきつく、慣れる

となった今、部活をやっている良かったと思います。部活では、身体的にも精神的にも強くなりました。その心の強さで、勉強だらけの毎日にもねばり強く、集中して取り組むことができました。受験勉強がいやと

感じ、くじけそうになっ

老朽の郷土館

答

最善を期す

答

教育長

地域の暮らしとともにあった農機具や日常生活用具が収蔵されており、歴史を物語る貴重で大切な資料である。文化財保護委員会の意見を聞き、活用と保存に最善を期す。

郷土館は施設の老朽が激しく、貴重な歴史資料が危機にひんしている、管理の考えは。

問

山口

用地交渉は

答

原則地元で

答

町長

町道整備は地元からの要望に対し、整備計画を立て事業を実施してきた。町が発注する工事の用地交渉は、原則地元で調整を行い、地権者の協力を得て行っている。住家や倉庫、残土処理場の立木などの上物には補償費を支払っている。町道整備や公共工事は、従来通りの方法で進めた。公共事業の状況は厳しく、限られた予算で実施しており、地域の皆の理解をいただき、無償の提供を原則に、ご協力いただきたい。

問

山口

町道の整備や管理は、町の責任で行うことが大原則である。本町は、用地費や補償費の計上がなく、用地交渉も地元が行い、苦勞している。用地交渉は町の責任、義務では。



池川中 体験学習



池川郷土館

観 光 特 使

酒場放浪記

= 吉 田 類 氏 =

大石弘秋町長 行政報告

県功労者表彰受章



日 浦 郷一氏

黄綬褒章受章



西 森 鶴氏

瑞宝双光章受賞



吉 村 均氏

仁淀川森林組合代表理事
組合長及び土佐の木の家づ
くり協議会代表。
多年、林業関係団体の要
職を歴任し、組織の基盤強
化に尽力するとともに、林
業の振興発展に寄与された。

昭和39年に個人営業、西
森建設を創立。
大渡ダム関連工事や地す
べり対策工事を始め、国、
県、町の各種公共工事や鳥
形山石灰鉱山開発関連の民
間工事など、数多く手がけ、
建設業一筋に業務に精励さ
れた。

昭和36年旧吾川村に書記
として奉職、平成14年6月
30日に退職、31年6ヵ月に
わたり各課の要職を歴任。
昭和62年7月から退職さ
れるまでの15年間にわたり、
収入役として会計管理の適
切な運営に尽力し、地方自
治の発展に大きく貢献され
た。

仁淀開発公社

国の公益法人制度改革
に伴い、見直すことにな
った。

今の公社では公益財団
法人としての認定を受け
るのは困難である。

公社が管理運営をして
いる観光センターは、大
渡ダム公園の中心的施設
であるとともに、仁淀地
区の観光、交流の拠点で
もあり、高瀬地区の集会
の場、避難場所などにも
活用できる施設として建
設されている。

県知事の認可を受け平
成24年3月31日で解散し、
4月1日より町直営で管
理運営を行う。

職員採用

10月17日、1次試験を
実施。24人が受験。
全国平均を上回った上
位8人で、11月18日に2
次試験を実施。
内定者2人に、通知し
た。

初の



たのんだけよ!!

町観光特使

10月14日に本町仁淀地区出身者で「酒場詩人」としてテレビなどでも活躍中の吉田類氏に、第1号の仁淀川町観光特使を委嘱。

これをきっかけに故郷とのつながりをより一層深めてもらい、幅広い活動の場を通じて、本町の魅力を全国に広めることを期待している。

町外のPR活動や、町内のイベントなどに参加も考えている。

庁舎建設

10月と11月に庁舎建設検討委員会できまざまな意見を聞いた。

本庁位置は、大崎地区。機能は執行部と議会に委ねたい。

建設に向け、町民の意見を反映し、建設地や規模、既存庁舎の利活用など、27年度末までの完成を目指す。

高知市二葉町との交流

二葉町自主防災会が来庁し、交流の要請があった。

南海地震に対する危機感の大きさや、自主防災活動に対する意識の高さを感じた。

東日本大震災における助け合いの精神の大切さを教訓にしたいとの思いから、交流を開始することにした。

地域同士の交流を深め、少しずつ本格的な協議を行っていきける土台づくりから始めたい。

バイオマス事業

19年5月までに、佐川町木材団地のペレット工場や発電施設の設備、22年1月にはチップ設備の改良を行った。

22年度から町がNPO法人土佐の森救援隊に委託しているが、事業運営は厳しい状態である。

来年度以降、町が事業を実施していく考えはない。

現在、町内に新たなペ

レット製造設備が整備され、新たに設立された協同組合がC材と呼ばれる林地残材などのチップ材を取り扱う予定。

町主体でなく、町内の木質バイオマスの活用が引き続き継続できる状況は十分整っている。



吉田 類氏